

Press Release

プレスリリース

2008年8月21日

株式会社日本医療データセンター

報道関係各位

日本医療データセンター 『JMDC データで読むヘルスケアレポート』 vol. 9

通院中の糖尿病患者、50代では半数が血糖値コントロールに失敗

医療データベースの構築・分析及び健康保険組合へのソリューション提供を行う、株式会社日本医療データセンター（東京都千代田区、代表取締役：木村 真也）が実施した調査によると、現在通院中の糖尿病患者のうち、血糖検査値が基準値（*）を超えている人が、44.7%も存在していることがわかりました。

この結果は、日本医療データセンターが契約する健康保険組合加入者で、2006年4月～2007年3月の1年間のレセプトデータ（**）から抽出された糖尿病患者2,600人の健診データを用いて通院／投薬と血糖値のコントロール状況を分析して判明したものです。このうち『上手にコントロールできている人〔優〕』は31.6%、『おおむねコントロールできている人〔良〕』は23.7%、『コントロールできていない人〔不十分/不良〕』は24.9%、『全くコントロールできていない人〔不可〕』は19.8%です。血糖値コントロールできていない〔不十分/不良〕と〔不可〕では44.7%と半数近くの糖尿病患者が通院しているながらも達成できていない現状が血糖値コントロールの難しさを示しています。また、年代別に確認すると、年代が高くなるにつれ血糖のコントロールができていない人が増え、50歳代では47.6%と半数近くが血糖値のコントロールができていませんでした。

*日本糖尿病学会編集「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」の基準値をもとに分析

**診療報酬明細書のこと

この分析から、北里大学医学部 佐藤敏彦准教授（公衆衛生学）は、以下のようにコメントしています。
「糖尿病はさまざまな病気の温床となる生活習慣病です。自覚症状がないまま重症になると、全身の神経や器官が冒され、最悪の場合、腎不全で人工透析が必要になります。一般に人工透析というと「血液透析」が主流となりますが、血液透析の場合『一回4時間、週3回通院』が標準といわれています。その為、日常生活への支障、仕事の制限など自由な時間・行動が奪われてしまいます。『血糖値が高めです』と言われたら、早めの受診が必要です。服薬だけでなく、適度な運動や食事対策にも十分気をつけてください。」

■ 本件に関する問い合わせ先

株式会社日本医療データセンター ヘルスケア事業部 担当 小沼・大澤

メールアドレス：FAQ@jmdc.co.jp (TEL):03-3511-6781 (FAX):03-3511-6782

Press Release

プレスリリース

◆資料

■糖尿病患者の血糖コントロール状況

〔優〕上手にコントロールできている人	31.6%
〔良〕おおむねコントロールできている人	23.7%
〔不十分/不良〕コントロールできていない人	24.9%
〔不可〕全くコントロールできていない人	19.8%

■糖尿病患者における年代別血糖コントロールの場合

	30 歳代	40 歳代	50 歳代
〔優〕	47.0%	35.9%	26.4%
〔良〕	18.9%	20.8%	26.0%
〔不十分/不良〕	13.7%	23.5%	27.9%
〔不可〕	20.4%	19.8%	19.7%

(分析期間:2006年4月~2007年3月 分析対象:30~59歳の糖尿病と診断された2,600人)

「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」 <コントロール評価とその範囲>

〔優〕:HbA1c 5.8%未満、空腹時血糖 80~110mg/dl 未満、食後2時間血糖 80~140mg/dl 未満

〔良〕:HbA1c 5.8~6.5%未満、空腹時血糖 110~130mg/dl 未満、食後2時間血糖 140~180mg/dl 未満

〔不十分/不良〕:HbA1c 6.5~8.0%未満、空腹時血糖 130~160mg/dl 未満、食後2時間血糖 180~220mg/dl 未満

〔不可〕:HbA1c 8.0%以上、空腹時血糖 160mg/dl 以上、食後2時間血糖 220mg/dl 以上

■関連情報

メタボリックシンドローム対策レシピ「Pep! eco-recipe(エコレシピ)vol.15」に詳しい情報が掲載されています。

詳しくはこちら: <http://www.jmdc.co.jp/eco-recipe>

◇JMDC データで読むヘルスケアレポートとは

株式会社日本医療データセンターが、月1回発表するレポートで、同社独自の技術を用いたJMDCデータ*を利用して、リアルな患者のデータから、日本人の健康や疾病の傾向を分析するものです。

*JMDC データ: 株式会社日本医療データセンターが約33万人(2007年11月現在)の健康保険組合加入者から収集した健康診断の情報やレセプト情報を解析したデータ。個人を特定しないよう加工され、時系列での処理が可能のため、治療の経過などを疫学的に検証することが可能。

◇日本医療データセンター(<http://www.jmdc.co.jp/>)

個人を特定しない医療データ生成・分析を行うことができる、日本で初めての会社として、健康保険組合および製薬会社などにデータ活用ソリューションを提供しています。かつては個人情報の問題と、医療機関ごとに異なる用語やフォーマットによりデータとして利用することが難しかったレセプトですが、日本医療データセンターでは、これまで約1,080万件(2008年3月末時点)のレセプトデータの処理実績で培ったノウハウから、傷病、医薬品、診療行為、投薬などの分析マスターを独自で作成いたしました。本年4月から開始された特定保健指導の本格的実施により、データの基盤整備と解析手法のニーズが拡大していきます。日本医療データセンターは、こうした施策を改善に繋げるために、「データによる検証」を提言し一翼を担ってまいります。